

# 会 報

No.42 (1992年6月)

## 目 次

- ◆第15回(1992年)日本分子生物学会年会のお知らせ(その2) ..... 1
- ◆学会費納入について ..... 10
- ◆日本分子生物学会入会申込みの手順 ..... 10
- ◆学術賞および研究助成金の本学会推薦について ..... 10
- ◆第5回(1992年度)東燃研究奨励賞について ..... 12
- ◆第19回(平成4年度)日産学術研究助成の募集について ..... 13
- ◆山田科学振興財団1993年度研究援助候補の推薦について ..... 14
- ◆各種研究助成などへの本学会推薦について ..... 15
- ◆各種シンポジウムのお知らせ ..... 16
  - 千里ライフサイエンスセミナー
    - 「第3回血管病変の分子生物学」 ..... 16
    - 「ブレインサイエンスシリーズ第4回学習記憶の分子機構」 ..... 17
  - 千里ライフサイエンス国際シンポジウム
    - 「ライフサイエンスの進展とこれからの健康」 ..... 18
- 第45回日本細胞生物学会大会 ..... 19
- PLANT GENOME Iのご案内 ..... 20
- 第19回核酸化学シンポジウム予告(2) ..... 21
- ◆日本学術会議だより ..... 27

日 本 分 子 生 物 学 会

(THE MOLECULAR BIOLOGY SOCIETY OF JAPAN)

## ◆第15回(1992年)日本分子生物学会年会のお知らせ(その2)

第15回年会を1992年12月7日(月)~10日(休)の4日間、国立京都国際会館で開催します。詳細については後日(10月中旬の予定)お送りするプログラムでお知らせしますが、大会スケジュールのあらまはは次頁の日程表の通りです。

なお、準備委員会とプログラム委員会の構成は下記の通りです。

### <準備委員会>

今本 文男(委員長)	岩渕 雅樹	岡 穆宏	岡本 浩二
小関 治男	志村 令郎	高浪 満	竹市 雅俊
永田 俊夫	中西 重忠	畑中 正一	藤沢 久雄
本庶 佑	三井 宏美(故人)	由良 隆	

### <プログラム委員会>

今本 文男(委員長)	岡 穆宏	岡本 浩二	加納 康正
河野 享子	五島 直樹	重定 勝哉	清水 章
永田 俊夫	畑山 巧	和田千恵子	和田 守正

## 一般発表

すでに会報No.41(1992年3月)でお知らせしましたように、一般発表は、ポスター発表・口頭発表・シンポジウム発表のいずれかを希望していただく応募形式となります。後記の「発表申込み」の要項にしたがいお申込みください。これらの発表申込演題の採否は、演題採否通知書により、申込者にお知らせします。

## ポスター発表

ポスター発表は第1, 2, 4日目で約750題を予定しています。ポスターは一日中(9時より19時まで、ただし、最終日は16時30分までの予定)掲示していただき、午前中の指定した時間帯には発表者が口頭説明して下さい。すなわち、代表発表者は、指定時間帯(9時30分~10時30分もしくは10時30分~11時30分のいずれかを演題採否通知書で指定)にはポスターの前に立ち、質問・討論に備えて下さい。ポスター掲示のスペースは高さ150cm×幅150cm(両側に若干の余裕あり)を予定しています。

## 日 程 表

	12月7日(月)	12月8日(火)	12月9日(水)	12月10日(木)
9:00	ポスター説明	ポスター説明	特 別 シンポジウム	ポスター説明
	ポスター説明	ポスター説明		ポスター説明
11:30				
12:30	口 頭 発 表	シンポジウム (A)	総 会	口 頭 発 表
		シンポジウム (B)	特 別 シンポジウム	
19:00			懇 親 会	

### 口 頭 発 表

口頭発表は第1, 4日目午後15時(約660題:15分/題)で開催されます。後記の口頭・ポスター発表セッション名の一覧表より申込みされる演題に関連の深いものを選び、「発表の申込み」の要項にしたがいお申込み下さい。口頭発表のプログラム編成は、申込みのあった演題の中から準備・プログラム委員会が選んで行います。口頭発表の申込みが多い場合には、ポスター発表にさせていただくようお願いすることがあります。この場合に、ポスター発表を希望されない方は、「プログラム編集用カード」の通信欄にその旨をご記入下さい。

### シンポジウム発表

シンポジウムは第2日目午後6時(約180題)で開催されます。シンポジウム・セッションは、招待講演(全体の1/3)と一般応募講演で構成します。応募希望者は、後記のシンポジウム・セッション名の一覧表より申込みされる演題に関連の深いものを選び、「発表の申込み」の要項にしたがいお申込み下さい。発表演題の採択は、申込演題の中から一覧表に記載の世話人が準備・プログラム委員会と相談して行います。シンポジウムでの口演発表時間の割り振り等の決定は、原則として世話人が行います。

## 特別シンポジウム

第3日目の午前と午後以後記のプログラムで行います。それぞれのセッションは1名の海外招聘研究者と3名の国内研究者の講演（英語）で構成されています。

## ミニシンポジウム、ラウンドテーブル・ディスカッションの企画

第2, 3日目のシンポジウム・特別シンポジウムと並行して、または第1, 2日目の19時以降に、表記会合の企画を希望される方は年会事務局に申し出て下さい。80名前後の収容可能な部屋を提供します。申込みの際して、集会テーマ、世話人（企画者、進行係）、話題提供者、使用時間等をお知らせ下さい。集会運営に関わる方は本学会会員とし、当日の進行一切は世話人が行ってください。集会は公開を原則とし、プログラムに記載します。

（なお、申込み多数の場合にはご希望に添えないことがあるかも知れません）

## 発表の申込み

1. ポスター発表、口頭発表およびシンポジウム発表の申込みは、本年度会費既納の本学会会員に限り、1人1題とします。なお、他のポスター発表、口頭発表およびシンポジウム発表の連名者となることはさしつかえありません。
2. 発表演題は他学会での発表と重複しないものとします。
3. ポスター発表、口頭発表およびシンポジウム発表の申込みは、とじ込みの用紙（発表申込書、プログラム編集用・人名索引編集用カード、発表要旨、受取書、発表演題採否通知書）に必要事項を記入・印字し、要旨の電子コピー3部を添え、ポスター、口頭発表、シンポジウム発表のいずれを希望するかを必ず明記して、書留便で年会係までお送り下さい。

なお、準備・プログラム委員会などへの連絡事項があれば、「プログラム編集用カード」の通信欄にお書き下さい。ただし、希望に添えないこともあります。また、別の手紙を添付または同封しないで下さい。

応募受付開始 1992年7月6日（月）

応募締切 1992年7月31日（金）必着

送り先

〒565 豊中市新千里東町1-4-2  
千里ライフサイエンスセンタービル14階  
学会センター関西内  
第15回 日本分子生物学会年会 係  
電話 (06) 873-2301 Fax (06) 873-2300

（送り先が昨年度と異なりますので、ご注意ください。）

4. ポスター・口頭発表の代表発表者およびシンポジウム発表者の本年度会費納入を確認するために、申込書の指定の欄に会費払い込みの際に、郵便局が発行する領収書のコピーを貼付して下さい。

なお、入会手続き中の方や、領収書を紛失された方は同欄にその旨を記入して下さい。また、入会申込みをされる方には、入会申込書と会員カードを提出された後に、日本学会事務センターより会費の請求書が送付されますのでご注意下さい。会費未納の場合には、発表申込みを受理できませんのでご注意下さい。

5. 発表演題受取書は、申込み用紙到着後に代表発表者の本年度会費納入を確認の上、返送されます。発表演題の日時についての通知は、会員の方々に送付されるプログラムを以て代えます。発表演題は申込みの形式および内容に関して、不備、あるいは不相当と考えられる場合には、不採用のこともありますのでご承知おき下さい。

### **参加申込みおよび参加費**

1. 年会参加費は、前納の場合一般会員 5,000 円、学生会員 4,000 円です。当日受付の場合は、それぞれ 6,000 円、5,000 円、非会員 7,000 円となりますのでご注意下さい。**参加費には講演要旨集 1 部の代金が含まれています。**なお、要旨集のみ希望の方には、会員 2,000 円（ただし、会員 1 人につき 1 部のみ）、非会員 4,000 円でお頒けします。
2. 本年度は、懇親会を 12 月 9 日(木)18 時より国立京都国際会館内「サクラ」において予定しています。懇親会費は、5,000 円です。奮ってご参加下さい。
3. 年会参加費、要旨集代金、懇親会費の払い込みには、同封の振替用紙をご利用下さい。

同封の用紙を使用されない場合には、必ず通信欄に、第 15 回日本分子生物学会年会費と記入し、送金の内訳、住所・氏名をご記入の上、下記の郵便振替口座へご送金下さい。

口座番号 大阪 2 - 22357

加入者名 (財)日本学会事務センター 大阪事務所

**(学会費の振替用紙とは口座が異なりますのでご注意下さい)**

整理の都合上、**申込み者 1 人につき 1 枚の振替用紙**をご使用下さい。

4. 11 月 1 日までに参加費を払込まれた方には、年会前に講演要旨集を郵送します。  
11 月 2 日以降に払込まれた場合には、年会会場にて講演要旨集をお渡しすることになりますのでご注意下さい。
5. 参加費払い込みの領収書は、原則としてお送りしませんのでご了承下さい。念のため、郵便局の領収書を保管しておいて下さい。

6. 当日申込みされる方は、会場受付で参加費をお支払い下さい。
7. 年会期間中の宿泊・JR・航空券の手配については、日本交通公社（JTB）京都支店（国際旅行課）よりご案内します。

8. 第15回年会に関する問い合わせ先

本年の年会運営は下記で担当します。この年会についてのご意見は下記宛にお願いします。

学会センター関西（財）日本学会事務センター大阪事務所）内

第15回 日本分子生物学会年会 係

（7月3日まで） Tel：(06) 356-6041 Fax：(06) 356-6190

（7月6日から） Tel：(06) 873-2301 Fax：(06) 873-2300

### 発表申込用紙などの記入上の注意

1. 用紙は切り離さずに郵送して下さい。
2. \*印の項には記入しないで下さい。
3. 要旨はオフセット印刷しますので、ワードプロセッサまたはタイプライターで直接印書するか、または印書したものをていねいに糊付けして下さい。代表発表者の前には、○印をつけてください。所属は略称を用いて下さい。

なお、鮮明な電子コピーを3部（B5判）添付して下さい。

4. プログラム編集用カードにしたがって、プログラムを編集・印刷します。「演題」「氏名・所属」を要旨に記載のものとまったく同じに記入して下さい。なお、同一研究グループで複数の関連演題を発表する場合に、発表の順序などに希望があればその旨を「プログラム編集用カード」の通信欄に記入して下さい。
5. 人名索引編集用カードには演者および連名の方すべてについて1枠に1名ずつ記入して下さい。

なお、外国人の方は、カタカナでの表記を避け、アルファベットでファミリーネーム、ファーストネームの順で記入して下さい。

6. 発表申込書には「演題」「氏名・所属」とともに、連絡者1名の氏名・住所・電話番号・Fax.No.を記入して下さい。
7. 口頭・ポスター発表の分類について、分類表から希望するものを選び、2種の番号で記入（例：I-1、IV-5など）、口頭・ポスターのいずれを希望するかを明記して下さい。昨年度に引続き研究内容中心の分類を採用しています。できるかぎり、その研究内容に沿った項目を選ぶようにして下さい。
8. シンポジウム発表に応募される方は、セッション名一覧表より希望するものを選んでアルファベットおよび番号で（例：A-1、B-3など）ご記入下さい。

9. 代表発表者の本年度会費払込領収書（郵便局の発行するもの）のコピーを所定の欄に貼付して下さい。入会手続き中の方や領収書を紛失された方は同欄にその旨をお書き下さい。
10. 受取書のハガキには「演題」、発表演題採否通知書のハガキには「演題」と「発表希望セッション名」を記入して下さい。また、裏面には宛名を記入し、41円の切手を貼って下さい。切手が貼られていない場合には返送しません。

## 一般口頭発表，ポスター発表のセッション名

- I. 分子構造
  1. ゲノム解析（遺伝子工学）
  2. 遺伝子，核酸
  3. 蛋白質（蛋白質工学）
  4. 分子集合
  5. 分子進化
  6. 染色体外因子（ウイルス，ファージ，プラスミド）
  7. その他
- II. 分子機能
  1. 複製（DNA，RNA，染色体）
  2. 組換え，修復，変異
  3. 転写
  4. 翻訳
  5. RNA 機能，RNA プロセッシング
  6. 蛋白質のプロセッシングと局在化
  7. 染色体外因子（ウイルス，ファージ，プラスミド）
  8. その他
- III. 細胞の構造
  1. 核内構造と核機能（染色体，クロマチン，核小体）
  2. 細胞質オルガネラ（ミトコンドリア，クロロプラスト等）の構造と機能
  3. 細胞（生体膜，骨格）
  4. その他
- IV. 細胞の機能
  1. 情報伝達（成長・分化因子，ホルモン等の生理活性物質，ストレス応答）
  2. 細胞増殖（分裂，周期）
  3. 癌遺伝子，癌化
  4. 増殖関連因子
  5. その他
- V. 高次生命現象
  1. 免疫
  2. 発生，分化
  3. 神経
  4. 病因解析・診断，老化
  5. その他
- VI. 分子生物学的方法論，技術

特別シンポジウム (A) (12/9 9:30~12:30)

**「Intracellular Protein Assembly and Stress Proteins」**

- 1) Costa Georgopolus : Molecular Chaperons ;  
Biological Role and Mechanism of Autoregulation  
(座長) 由良 隆  
(60分)
- 2) 伊藤 維昭 : Genetic Analysis of Protein Translocation Across and  
Integration into the Membrane  
(座長) 水島 昭二  
(40分)
- 3) 矢原 一郎 : Structure and Function of the 90-KDa Heat Shock Protein, HSP 90  
(座長) 永田 和宏  
(40分)
- 4) 米田 悦啓 : Molecular Mechanism of Nuclear Protein Transport  
(座長) 水野 重樹  
(40分)

特別シンポジウム (B) (12/9 14:45~17:45)

**「From Genome Structure to Higher Biological Functions」**

- 1) Maynard Olson : Physical Mapping of Human Chromosomes  
(座長) 松原 謙一  
(60分)
- 2) 柳田 充弘 : Genome Dynamics in Cell Division Cycle  
(座長) 吉川 寛  
(40分)
- 3) 中西 重忠 : Recent Development of Genomic Studies on Neuronal  
and Brain Functions  
(座長) 御子柴克彦  
(40分)
- 4) 中村 祐輔 : Human Genome Mapping and Tumor Suppressor Gene  
(座長) 井川 洋二  
(40分)

## シンポジウム・セッション名

### (A)

1) ゲノム解析研究の展望

(世話人) 榎 佳之, 島田 和典

2) DNA 複製制御の分子機構

(世話人) 花岡 文雄, 平賀 壮太

3) 細胞機能制御と遺伝子発現

(世話人) 谷口 維紹, 石井 俊輔

4) 核・染色体の構造と機能発現

(世話人) 広瀬 進, 丹羽 修身

5) 発生・分化の分子的制御

(世話人) 竹市 雅俊, 近藤 寿人

6) 免疫の分子生物学

(世話人) 本庶 佑, 西川 伸一

### (B)

1) DNA トポロジーの生物効果

(世話人) 菊池 韶彦, 吉田 充輝

2) 細胞周期の制御と癌化

(世話人) 西本 毅治, 山本 雅

3) 遺伝的組換えの制御

(世話人) 小川 英行, 大坪 栄一

4) 植物生理機能の分子生物学：植物の形と環境応答

(世話人) 岩淵 雅樹, 町田 泰則

5) 転写の分子機構と制御

(世話人) 水野 猛, 嶋本 伸雄

6) 細胞認識とシグナル伝達

(世話人) 御子柴克彦, 高井 義美

#### ◆学会費（年度会費）納入についてのお願い

1. 平成4年度分および未納分の学会費を3月中旬にお送りした請求書（郵便振替用紙）により下記の通り納入して下さい。なお、学生会費を納入される方は、細則第2条により、在学証明書を日本学会事務センター（東京）へ提出して下さい。

正会員学会費 2,500円

（但し、在学証明書を提出したときは2,000円）

学会費の納入に際しては年会参加費と混同しないようにお願いします。

2. 年会の講演申し込みには、学会費納入控（または領収書）のコピーを添付することが必要です。講演を希望される方は、学会費納入控（または領収書）を保管しておいて下さい。

#### ◆日本分子生物学会入会申込みの手順

日本分子生物学会に入会を希望される方は、書面または電話により下記宛お申し込み下さい。所定の書式をお送り致します。

〒113 東京都文京区本駒込5-16-9 学会センターC 21

（財）日本学会事務センター・会員業務

日本分子生物学会 係

電話（03）5814-5810 Fax（03）5814-5825

#### ◆学術賞および研究助成金の本学会推薦について

学術賞および研究助成金の本学会よりの推薦は本学会選考委員の意見にしたがって行いますが、そのために必要な資料部数および期限は次の通りです。

1. 資料：①本申請に必要な申請資料（オリジナル+募集要項に記載されている部数のコピー）および論文  
②本学会の5名の選考委員用に上記申請資料のコピー5部（論文は不要）
2. 期限：本申請の概ね1か月前までに〒113 東京都文京区本郷7-3-1，東京大学工学部工業化学科 第4講座，日本分子生物学会 庶務幹事 渡辺公綱まで郵送して下さい。
3. 葉書：申込受付確認のため返信用葉書に宛名を書いて同封して下さい。

注意：資料②を同封せずに応募される人がかなりあります。場合によっては受け付けできませんので、ご注意下さい。

現在までに本会宛に推薦依頼のあった各種賞・助成などの要項と締切日をご案内致します。ご留意の上、適宜お申し込み下さい。なお、本会への郵送は学会推薦の選考のため、この締切りの1か月前（厳守）に締切りますのでご注意下さい。

国際生物学賞	国際生物学賞委員会 (03) 3263-1721 102 千代田区麹町5-3-1 ヤマトビル, 日本学術振興 会内	1 件	H. 4 6月30日	賞状, 賞牌 1,000万円	生物学の研究において世界的に優れた業績を挙げ, 世界の学術進歩に大きな貢献をした研究者(本年度, 授賞分野は比較生理学)。
井上 学術賞	財井上科学振興財団 (03) 3477-2738 150 渋谷区猿楽町11-20	5件以内 (1件)	H. 4 9月20日	1件メダル 200万円	自然科学の基礎的研究者で特に顕著な業績をあげた者(但し締切日現在満50歳未満)。
日産学術研究 助成	財日産科学振興財団 (03) 3543-5597 104 中央区銀座6-17-2	①~10件 ②~15件 (各2件) ③~35件 (全件)	H. 4 8月31日	共同研究 1件 ①1500万円 ②300万円 個人研究 ③200万円 以下	自然科学分野の基礎的な研究に従事し, 1~3年間を要する研究を行おうとする研究者および研究グループで, その研究成果が学術の進歩, 発展に貢献するところが大きいと思われるもの。社会の著しい変化にとまない, 自然科学にとどまらず, 人文科学, 社会科学の分野も含む。
東レ科学 技術賞	財東レ科学振興会 (0473) 50-6103 279 千葉県浦安市美浜 1-8-1 東レビル	2件前後 (2件)	H. 4 10月11日	1件 賞状金メダル 500万円	学術上の業績顕著なもの, 学術上重要な発見をしたもの, 重要な発明により効果が大いなるもの, 技術上の重要問題を解決し貢献が大いなるもの。
東レ科学技術 研究助成	同上	総額 1億円前後 (2件)	H. 4 10月11日	特に定めず 最大3000万円 まで	理・工学分野で独創的, 萌芽的な研究を活発に行っている若手研究者, またはそのグループ。
・ブレインサイ エンス財 団研究助成 ・塚原仲晃 記念賞	財ブレインサイエンス振興 財団 (03) 3273-2565 104 中央区八重洲2丁目 6-20	・12件 (1件) ・1件	H. 4 11月30日	・1件 100万円 ・1件 200万円	ブレインサイエンス研究分野(脳神経に関する自然科学的研究をすべて含む研究領域)において, 独創的で国際的評価に値する研究者。 なるべく若い者, 単独または共同研究も可。
・海外派遣 研究助成 ・海外研究者 招聘助成	同上	・総額 150万円 ・総額 100万円	H. 5 1月11日	・1件 50万円まで ・1件 50万円まで	ブレインサイエンスの研究の促進を図るため, 国際学会, シンポジウム等への参加, あるいは研究者の派遣を助成。同分野において独創的テーマに意欲的に取り組んでいる外国人研究者の招聘を助成。
山田科学振興 財団研究援助	財山田科学振興財団 (06) 757-3311 544 大阪市生野区巽西 1-8-1	総額 6,000万円 (2件)	H. 5 3月31日	1件 300万円~ 700万円	自然科学の基礎的分野における重要かつ独創的な研究に従事する個人またはグループに対し助成。 10件内外。
上原賞	財上原記念生命科学財団 (03) 3985-3500 171 豊島区高田3-25-3	2件以内 (1件)	H. 4 9月10日	金 牌 1,000万円	生命科学の栄養学, 薬学, 基礎および臨床医学, 社会医学で顕著な業績をあげ, 引き続き活躍中の研究者。

申請をご希望の方は念のため詳細を関係先へご照会下さい。( )内の件数は学会からの推薦枠。

#### ◆第5回(1992年度)「東燃研究奨励賞」について

東燃株式会社より、分子生物学の研究に携わる若手研究者に対して「東燃研究奨励賞」が授与されます。

この件につき、選考を本学会に依頼されましたので、推薦を受けたい方は下記に従って応募してください。

##### 1. 「東燃研究奨励賞」応募者の資格

大学および研究機関において分子生物学の領域で優れた研究を行っている大学院生および若手研究者(年齢30才程度以下)。ただし、平成4年4月1日現在本学会会員であること。

##### 2. 授与件数と金額

2件(計2名)、研究奨励金1名につき50万円

##### 3. 応募方法および締切日

以下の書類などを平成4年7月31日必着で、日本分子生物学会「東燃研究奨励賞」係まで郵送する。応募書類などは返却しない。

- 1) 所定の応募用紙に必要事項を記載したもの(オリジナル1部および本会選考委員会用コピー5部)
- 2) 論文目録に記載された論文の別刷またはコピー各5部(ただし3編以内)

##### 4. 応募用紙請求先

平成4年7月10日(必着)までに、宛先を記入した返信用B5判封筒(120円切手を貼ったもの)を同封して下記へ郵便で請求して下さい。

〒113 東京都文京区本駒込5-16-9 学会センターC 21

(財)日本学会事務センター・学会業務

日本分子生物学会 係

電話 (03) 5814-5801 Fax (03) 5814-5820

##### 5. 応募書類送付先

〒113 東京都文京区本駒込5-16-9 学会センターC 21

(財)日本学会事務センター・学会業務

日本分子生物学会 係

◆第19回（平成4年度）日産学術研究助成の募集について

研究助成課題

1. 人間と機器との係わりに関する研究（重点助成課題）
2. 資源・エネルギーに関する研究
3. 自然環境および都市環境に関する研究
4. 新しい機能材料の研究
5. 生命現象に関する研究

研究助成要約

研究の種別	一般研究助成		奨励研究助成
	(A)	(B)	
研究の性格	研究が長期にわたる学際的グループ研究  (共同研究に限る)	大きな発展の可能性を内蔵する課題の前段階的研究あるいは短期間の研究  (共同研究に限る)	若手研究者による萌芽的・独創的研究  (個人研究)
1件当りの助成金額	1,500万円限度	300万円限度	200万円限度
助成金の総額 (採択件数)	約12,500万円 (10件程度)	約4,000万円 (15件程度)	約5,500万円 (35件程度)
助成金の支払期間	・平成5年度（5/4～6/3） を助成第1年度とする。 ・助成期間2～3年	平成5年度に交付  助成期間1年	同左  助成期間1年

締切日

学・協会から当財団への推薦締切日は、平成4年8月31日(月)。

資料請求・問い合わせ先

<p>財団法人 日産科学振興財団研究助成 係</p> <p>〒104 東京都中央区銀座6-17-2 木挽館</p> <p>TEL (03) 3543-5597 (代表)</p> <p>FAX (03) 3543-5598</p>
--

## ◆山田科学振興財団 1993 年度研究援助候補推薦要項

### 援助の趣旨および内容

1. 本財団は、自然科学の基礎的研究に対して研究費の援助を致します。実用指向研究は援助の対象としません。
2. 援助額は1件当たり300万円～700万円、総額6,000万円、援助総件数は10件程度ですが、学会からの推薦および本財団関係者からの個人推薦の中から選考致します。
3. 援助金を給与に充てることは出来ませんが、他の用途は自由です。
4. 援助金の使用期間は、贈呈した年度およびその次の年度の計2年間とします。

### 推薦方法

- イ. 推薦者 本財団が依頼した学(協)会の代表者
- ロ. 推薦件数 1推薦者ごとに2件以内
- ハ. 推薦手続 推薦者は、以下の書類を整え、ご送付願います。
  1. 所定の推薦書用紙またはその写しに必要な事項を記入したもの 4部
  2. 添付書類(研-5ページ参照)

### 記載上の注意

- イ. 紙面不足のときには、同型同大の別紙で追加して下さい。
- ロ. 代表研究者は、所属のある場合、当該所属の長から本援助の申込をすることについての承諾を得て下さい。

**推薦締切期日** 本財団に推薦書が到着する締切期日は1993年3月31日です。

**選考方法** 選考委員会において選考の上、理事会が決定します。

**選考結果の通知** 1993年7月迄に推薦者および代表研究者等に宛てて通知します。

**援助金の贈呈** 選考結果の通知後適時贈呈致します。

### 推薦書送付先および連絡先

財団法人 山田科学振興財団  
(Yamada Science Foundation)  
〒544 大阪市生野区巽西1丁目8番1号  
電話 大阪(06)757-3311(代表)

### 研究の成果または会計の報告

援助金の受領者に対して、必要に応じ、研究経過、研究成果、または会計について報告書の提出または発表をして頂きます。

### 付 記

- イ. 援助金の用途を変更する場合には、予め本財団の承諾を得て下さい。
- ロ. 研究成果を文書によって発表される際には、本財団(財団法人 山田科学振興財団, Yamada Science Foundation)の援助による旨を記載し、報文の類にあつてはその別刷1部、また著書の類にあつてはその1部をご寄贈願います。
- ハ. ご提出頂きました推薦書および添付書類は、お返しいたしません。

### 研究者各位へ

推薦者の項に対応する学(協)会は次記のとおりです。学(協)会により締切期日および募集方法が異なりますから、代表研究者は応募の際、各学(協)会にお問合わせ願います。

日本天文学会	日本化学会	日本生理学会	日本生物物理学会
日本物理学会	高分子学会	日本遺伝学会	日本発生生物学会
応用物理学会	日本農芸化学会	日本分子生物学会	日本植物生理学会
日本金属学会	日本薬学会	日本動物学会	日本植物学会
地震学会	日本生化学会	日本細胞生物学会	日本免疫学会
地球電磁気・地球惑星圏学会			

◆各種研究助成などへの本学会推薦について

○平成3年度（第32回）東レ科学技術研究助成候補者として本学会が推薦した下記1件が採択された。

横山 茂之（東大・理）

「分子認識機構に基づく人工遺伝暗号システムの構築」

○1992年度山田科学振興財団研究援助に申請のあった下記2件を本学会より推薦した。

杉野 明雄（阪大・微研）

「出芽酵母（*Saccharomyces cerevisiae*）DNAポリメラーゼ $\epsilon$ の

DNA複製における役割と細胞周期による発現および活性調節機構の研究」

岡本 仁（基生研）

「外来遺伝子の微小注入技術を使った、ゼブラフィッシュ胚発生機構の解析」

◆各種シンポジウムのお知らせ

○千里ライフサイエンスセミナー「第3回 血管病変の分子生物学」

日 時 平成4年9月18日(金) 午前10時～午後4時30分

場 所 千里ライフサイエンスセンタービル ライフホール(5階)

〒565 大阪府豊中市新千里東町1-4-2 (地下鉄御堂筋線千里中央駅すぐ)

主 催 財団法人 千里ライフサイエンス振興財団

協 賛 株式会社 千里ライフサイエンスセンター

コーディネータ 国立循環器病センター研究所 副所長 山本 章

プログラム 1. 内皮細胞と血球細胞のインタラクション

自治医科大学 教授

島田 和幸

2. 平滑筋細胞のフェノタイプと増殖

千葉大学医学部 講師

齋藤 康

3. PAF 受容体と情報伝達

東京大学医学部 助手

和泉 孝志

4. EDRF と動脈硬化, リポ蛋白

神戸大学医学部 教授

横山 光宏

5. プロスタグランディンの生化学と分子生物学

徳島大学医学部 教授

山本 尚三

受講料(講演要旨集合む)

会 員(但し, 大学, 官公庁, 当財団賛助会員,

主催・協賛団体会員)

: 5,000円

非会員

: 7,000円

学 生

: 3,000円

定 員 200名

参加申込方法 ①氏名②勤務先, 所属, 役職名, 所在地, 〒, 電話, FAX 番号③振込  
予定日を明記の上, 葉書または FAX で下記宛お申込み下さい。参加費は申込  
後に大和銀行千里中央支店・普通預金No.4601085・(財)千里ライフサイエンス  
振興財団口座宛開催日の3日前までにお振込下さい。なお振込の際振込者名の  
前にK3とご記入下さい。ご送金確認次第, 領収書兼参加証を送付致します。

申込先 (財)千里ライフサイエンス振興財団「血管病変」セミナー係

(平成4年6月30日まで)

〒565 大阪府豊中市新千里東町1-4-1 阪急千里中央ビル9階

TEL (06) 871-5535 FAX (06) 871-5530

(平成4年7月1日以降)

〒565 大阪府豊中市新千里東町1-4-2 千里ライフサイエンスセンタービル

TEL (06) 873-2001 FAX (06) 873-2002

担当: 江口・松尾

○千里ライフサイエンスセミナー

「ブレインサイエンスシリーズ 第4回 学習・記憶の分子機構」

日時 平成4年10月2日(金) 午前10時～午後5時30分

場所 千里ライフサイエンスセンタービル ライフホール(5階)

〒565 大阪府豊中市新千里東町1-4-2 (地下鉄御堂筋線千里中央駅すぐ)

主催 財団法人 千里ライフサイエンス振興財団

協賛 株式会社 千里ライフサイエンスセンター

座長 大阪大学医学部 教授 遠山 正彌

プログラム 1. グルタミン酸受容体の多様性

京都大学医学部附属免疫研究施設 助手 梶 正幸

京都大学医学部附属免疫研究施設 教授 中西 重忠

2. グルタミン酸受容体の生理機能と可塑性

九州大学理学部生物学教室 教授 杉山 博之

3. グルタミン酸受容体の脳内分布

大阪大学医学部解剖学第2・神経科学教室 助教授 木山 博資

4. 脳の可塑性とグルタミン酸受容体

大阪大学医学部バイオメディカルセンター高次神経医学部門 教授  
津本 忠治

5. 長期抑圧の分子機構とグルタミン酸

理化学研究所フロンティア思考ネットワークチーム 研究員 岡田 大助

6. グルタミン酸と精神疾患

国立精神・神経センター神経研究所 室長 西川 徹

受講料(講演要旨集含む)

会員(但し、大学、官公庁、当財団賛助会員、  
主催・協賛団体会員) : 5,000円

非会員 : 7,000円

学生 : 3,000円

定員 200名

参加申込方法 ①氏名②勤務先、所属、役職名、所在地、〒、電話、FAX番号③振込  
予定日を明記の上、葉書またはFAXで下記宛お申込み下さい。参加費は申込  
後に三和銀行千里中央支店・普通預金No.3656634・(財)千里ライフサイエンス  
振興財団口座宛開催日の3日前までにお振込下さい。なお振込の際振込者名の  
前にB4とご記入下さい。ご送金確認次第、領収書兼参加証を送付致します。

申込先 (財)千里ライフサイエンス振興財団「ブレインサイエンス」セミナー係  
(平成4年6月30日まで)

〒565 大阪府豊中市新千里東町1-4-1 阪急千里中央ビル9階

TEL (06) 871-5535 FAX (06) 871-5530

(平成4年7月1日以降)

〒565 大阪府豊中市新千里東町1-4-2 千里ライフサイエンスセンタービル

TEL (06) 873-2001 FAX (06) 873-2002

担当:江口・松尾

○国際シンポジウム「ライフサイエンスの進展とこれからの健康」

—千里ライフサイエンスセンタービル竣工記念—

会 期 平成4年10月15日(木)～16日(金)

会 場 千里ライフサイエンスセンタービル ライフホール (5階)

〒565 大阪府豊中市新千里東町1-4-2 (地下鉄御堂筋線千里中央駅すぐ)

TEL (06) 873-2001

主 催 財団法人 千里ライフサイエンス振興財団

後 援 株式会社 千里ライフサイエンスセンター

プログラム

【10月15日(木) 10:00～】

1. 招待講演 「日本におけるバイオメディカルサイエンス  
進展の歴史的背景と今後の国際的役割」

石坂 公成 (ラホヤ・アレルギー  
免疫研究所 所長)

2. 招待講演 「未定」

利根川 進 (マサチューセッツ工科大学 教授)  
— 昼 食 —

3. 招待講演 「心と行動の脳機構の解明に向けて」

伊藤 正男 (理研・国際フロンティア研究  
システム システム長)

4. 招待講演 「遺伝子工学の臨床的応用」

高久 史麿 (国立病院医療センター 院長)

5. 招待講演 「循環器病の予防について」

尾前 照雄 (国立循環器病センター 総長)  
— レセプション —

【10月16日(金) 9:00～】

6. 招待講演 「発癌研究の歴史と展望」

花房秀三郎 (ロックフェラー大学 教授)

7. 招待講演 「プリオン病の分子生物学」

チャールズ・ワイスマン

(チューリッヒ大学 教授)

8. 招待講演 「医学の進歩とクオリティオブライフ」

柳田 邦男 (評論家)

〈公用語 日本語・英語：一部同時通訳〉

参加方法 参加費 大学, 官公庁 : 25,000円

主催・後援団体会員, 賛助会員 : 30,000円 (講演要旨集,

一般 : 45,000円 レセプション費,

学生 : 15,000円 消費税を含む)

申込締切 9月30日(水), 定員(440名)になり次第

申込方法 ①氏名②勤務先・所属・役職名・所在地(〒・電話・FAX番号)③振込予定日を明記の上, FAX(又は葉書)で下記宛お申込み下さい。参加費は, お申込み後三和銀行・本店・普通No.1811008・国際シンポジウム事務局へお振り込み下さい。ご入金確認後領収書兼参加証をご送付致します。

申込・問合せ先 (財)千里ライフサイエンス振興財団・国際シンポジウム事務局  
(平成4年6月30日まで)

〒565 豊中市新千里東町1-4-1

阪急千里中央ビル9階

TEL (06) 871-5535 FAX (06) 871-5530

(平成4年7月1日以降)

〒565 豊中市新千里東町1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル8階

TEL (06) 873-2001 FAX (06) 873-2002

○第45回 日本細胞生物学会大会

日 時：平成4年(1992年)10月21日(水)～23日(金)

場 所：徳島県郷土文化会館

〒770 徳島市藍場町2-14

TEL (0886) 22-8121

大会委員長：市原 明(徳島大学酵素科学研究センター)

〒770 徳島市蔵本町3丁目18-15

演題締切日：平成4年6月30日(火)(消印有効)

連絡先：第45回 日本細胞生物学会大会 事務局

徳島大学酵素科学研究センター 酵素病理学部門

TEL (0886) 31-3111 FAX (0886) 33-0771

○ PLANT GENOME I のご案内

# PLANT GENOME I

November 9-11, 1992  
Town & Country Hotel, San Diego, CA

## Sponsors

Agricultural Research Service, USDA/ARS      National Agricultural Library, USDA/NAL  
John Innes Centre (U. K.)      National Institute of Agrobiological Resources, NIAR (Japan)

## Chairmen

**S. Heller**, USDA/ARS, Beltsville, MD      **J. Miksche**, USDA/ARS, Beltsville, MD  
**M. Gale**, John Innes Centre, Norwich, UK      **K. Takayanagi**, NIAR, Tsukuba, Japan

## Organizer

Scherago International, Inc.  
11 Penn Plaza, Suite 1003, New York, NY 10001, Tel: (212)643-1750, Fax: (212)643-1758

## SCIENTIFIC PROGRAM

### MONDAY, NOVEMBER 9, 1992

9:00 am~12:00 Noon **SESSION I**—**PURPOSE, MANAGEMENT & ORGANIZATION**—**K. RUSSELL, NAL**  
J. Miksche, ARS · K. Russell, NAL · G. Jen, CSRS

E. Magnien, EC · K. Takayanagi, Japan  
1:00 pm~3:00 pm **VIEWING OF EXHIBITS AND POSTERS**

3:00 pm~7:00 pm **SESSION II**—**MAPPING PROJECTS**—  
**M. BERLYN, YALE**

R. Shoemaker, ARS, Iowa · E. Coe, ARS, Missouri  
D. Neale, USDA/FS, Berkeley, CA · M. Gale, Norwich, UK  
B. Nilan, Pullman · N. Kurata, NIAR, Japan  
T. Osborne, Madison

### TUESDAY, NOVEMBER 10, 1992

9:00 am~12:00 Noon **SESSION III**—**MAPPING PROJECTS**—  
**C. KANEDA, KOBE UNIVERSITY**

E. Meyerowitz, CalTech · R. Sholl, OSU  
C. Dean, Norwich · R. Sederoff, NC State  
J.P. Gustafson, ARS, Missouri

1:00 pm~3:00 pm **VIEWING OF EXHIBITS AND POSTERS**

3:00 pm~6:30 pm **SESSION IV**—**INFORMATICS**—

**A. BARBER, DOE**  
D. Bigwood, NAL, Beltsville · J. McCarthy, LBL, Berkeley, CA  
D. King, NABIAP Project, VPI · A. Stoner, GRIN, ARS, Beltsville  
TBA, NCBI/NIH, Bethesda · S. Knapp, Oregon

### WEDNESDAY, NOVEMBER 11, 1992

9:00 am~12:00 Noon **SESSION V**—**BEYOND THE MAP**—  
**A. RAFALSKI, DUPONT**

S. Tanksley, Cornell · T. Sasaki, NIAR, Japan (cDNA talk)  
G. Moore, Norwich · T. Helentjaris, Arizona  
J. Bennetzen, Purdue

1:00 pm~3:00 pm **VIEWING OF EXHIBITS AND POSTERS**

3:00 pm~6:30 pm **SESSION VI**—**BEYOND THE MAP**—  
**G. FISCHBECK, MUNICH**

B. Burr, Brookhaven · M. Ganai, Cornell  
R. Michelmore, UC Davis · H. Goodman, Mass General  
R. Philips, Minneapolis · P. Helsen-Harrison, Norwich

## Proposed Satellite Sessions

“Forest Tree Genome Mapping” —organized by David Neale

“Map Generation & Analytical Mapping Software Workshop” —organized by Ed Coe,  
Mary Berlyn & Stan Levtosky

**Participants are invited to submit abstracts for the poster session.**

**Abstract deadline for inclusion in the Final program is October 1.**

## Registration Fees :

\$325 ON-SITE REGISTRATION.

\$275 ADVANCE REGISTRATION—(Received by Sept. 16)

\$ 75 STUDENT REGISTRATION—Student status must be confirmed in writing by  
department chairman.

Student rate does not apply to postdoctoral  
applicants.

お問い合わせ先

〒305 茨城県つくば市観音台2-1-2

農業生物資源研究所

企画調整部 高柳 謙治

TEL (0298) 38-7430 FAX (0298) 38-7408

## 第19回核酸化学シンポジウム予告(2)

と き:平成4年11月11日(水)~13日(金)

と ころ:パピオン24内ガスホール

(福岡市博多区千代1丁目17番1号)

TEL(092)633-2222

共 催:日本化学会・日本生化学会・日本生物物理学会・日本農芸化学会・日本分子生物学会・  
日本薬学会・有機合成化学協会・高分子学会

発表形式:口頭発表は1演題12分、質疑3分、スライド使用(10枚まで)とします。ポスター発表は、  
1.5m×1.5mの範囲内で、できるだけ見易く工夫して下さい。また、口頭による4分以内の  
概要説明(スライド5枚以内、質疑なし)を行います。ポスターは、第1日、第2日については  
少なくとも10:00-17:30、第3日については10:00-16:00の間掲示して下さい。

### プログラム

11月11日(水)

9:00-9:10 開会のあいさつ、連絡

9:10-10:40 セッション1 DNA, RNAの切断

1-1 DNAマイナーグループにおけるエスペラミシン/カリチェミシンのDNA切断様式 ○上杉志成、杉浦幸雄(京大化研)

1-2 L-DNAを用いるプレオマイシンの特異的DNA切断機構の解明 ○浦田秀仁、上田義明、宇佐美吉英、赤木昌夫(大阪薬大)

1-3 Viologen類縁体及びその修飾DNA oligomerの合成とDNA切断活性について ○池田寿文、田中圭、富士薫(京大化研)

1-4 DNAの酸化的切断の分子機構 ○杉山弘、山口英一、山下克宏、藤本健造、斎藤烈(京大工)

1-5 塩基配列特異性を持つDNA鎖光切断物質の開発 ○黒田玲子、四ノ宮美保、大塚雅巳(東大教養)

1-6 RNAの加水分解に対する希土類金属イオンの驚異的な触媒効果 ○松村一成、小宮山真(東大工)

10:40-11:00 休憩

11:00-12:30 セッション2 リボザイム、核酸の分離(1)

1-7 ハンマーヘッド型RNA酵素のループ部分のG→I変換体の性質 ○上杉晴一(横浜国大工) 小玉啓文、廣明秀一、小田井修(阪大薬)

1-8 エイズウイルス用多弾型リボザイムの開発 大川淳(長瀬産業)、湯山則子(茨大農)、○多比良和誠(微工研)

1-9 キメラ体リボザイムによる基質特異性の向上 ○嶋山隆(日立化成)、澤田慎矢(筑波大物質工)、小宮山真(東大工)、和田晃(久光製薬)、西川富美子、西川諭、多々良和誠(微工研)

1-10 U6核内低分子RNAと(-)sTRSVのキメラRNAの作製とその基質RNA切断活性に関する解析 ○谷時雄、高橋裕治、大島靖美(九大理)

1-11 最小のレプリカーゼとしてのハンマーヘッドリボザイム ○徳元康人、西郷薫(東大理)

1-12 DNAプロベクロマトグラフィの分解能の向上 ○陶山明<sup>1,2</sup>、土屋淳<sup>2</sup>、矢野圭司<sup>2</sup>、福田雅夫<sup>2</sup>  
(<sup>1</sup>東大教養、<sup>2</sup>長岡技科大)

12:30-13:30 昼食

13:30-14:00 特別講演1 DNA Modification by the haloethyl-nitrosoureas and the enzymatic repair of these lesions. David B. Ludlum (Univ. of Massachusetts, U. S. A.)

14:00-15:30 セッション3 核酸の分離(2)、ポスター概要説明

- 1-13 フルオロアルキル結合型シリカゲルカラムを用いる核酸及び関連化合物の高速液体クロマトグラフィ ○伊藤裕子、木下俊夫、二村典行(北里大薬)
- 1-14 ヌクレオシドを含むHPLC用固定相の合成および核酸成分の選択的分離 ○稲木良昭、松川賢治、河野秀樹、王紅、和田健彦、望月衛子、竹本喜一(阪大工)

ポスター概要説明

- 1-15P トリフェニルメタン色素によるプラスミドDNAの二本鎖同時光切断 小林正美、○三山幸子、小宮山真(東大工)
- 1-16P 希土類元素イオンによるDNAの切断 ○松本洋一(筑波大物質工)、小宮山真(東大工)
- 1-17P ヒドロキサム酸の銅(II)イオン存在下によるDNA鎖切断とその反応機構 ○橋本茂樹、中村有伸(東京理科大基礎工)
- 1-18P アデノシン3'、5'-環状リン酸の加水分解反応に対するランタノイド金属イオンの驚異的な触媒作用 ○須磨岡淳(筑波大物質工)、小宮山真(東大工)
- 1-19P RNA加水分解における律速段階の動力学的解明 ○椎葉哲朗(筑波大物質工)、小宮山真(東大工)
- 1-20P HDVリボザイムの活性必須残基の探索 ○西川諭<sup>1</sup>、徐玲雅<sup>1</sup>、Penmetcha Kumar<sup>1</sup>、川上純司<sup>2</sup>、西川富美子<sup>1</sup>、多比良和誠<sup>1</sup>(<sup>1</sup>微工研、<sup>2</sup>北大薬)
- 1-21P ヘアピン型リボザイムによる交差連結反応およびRNAの組み換え反応の解析 ○小松康雄、小泉誠、関口陽、大塚栄子(北大薬)
- 1-22P リボザイムによる線虫mRNA発現阻害の試み ○川原哲史、大島靖美(九大理)
- 1-23P 多価アミンを触媒とするRNA加水分解~反応機構と位置選択性の付与~ ○吉成幸一(筑波大物質工)、井野川拓也、小宮山真(東大工)
- 1-24P キャピラリーゲル電気泳動によるDNAの分離とシーケンシング ○馬場嘉信、津波古充朝(神戸女子薬大)
- 1-25P ポリビニルアデニン含有ヒドロゲルを用いたキャピラリーアフィニティーゲル電気泳動によるd(TTTATT)と(TTATTT)の認識 ○澤智裕、明石満(鹿大工)、馬場嘉信、津波古充朝(神戸女子薬大)
- 1-26P Gクラスターを含むリボオリゴヌクレオチドの構造解析 ○志田敏夫、関口順一(信州大繊維)
- 1-27P ブロードニングしたNMRシグナルをもった一本鎖DNAの構造 村上章<sup>1</sup>、○鈴木利典<sup>1</sup>、田村裕<sup>1</sup>、西正敏<sup>2</sup>、森井孝<sup>1</sup>、井出博<sup>1</sup>、牧野圭祐<sup>1</sup>(<sup>1</sup>京都工繊大、<sup>2</sup>摂南大薬)
- 1-28P 水溶液中ではリン5配位中間体は必ず存在する Ari Yliniemela、○内丸忠文、田辺和俊(化技研)、上林正巳、多比良和誠(微工研)
- 1-29P 合成RNAとキナクリンおよびその類似物との相互作用:速度論的研究 ○吉松早織、中村正一郎、久保田幸雄(山口大理)

15:30-16:30 セッション4 ポスター発表(1-15P~1-29P)

16:30-18:30 セッション5 構造解析、相互作用

- 1-30 ATP単結晶およびDNA配向結晶の偏光顕微ラマンスペクトル ○坪井正道(いわき明星大理工)、牛澤浩一、上田豊甫(明星大理工)
- 1-31 連続した非ワトソン-クリック型塩基対を含むRNA 2重らせんの結晶構造 ○藤井敏<sup>1</sup>、田中好幸<sup>1</sup>、上杉晴一<sup>2</sup>、田中俊樹<sup>3</sup>、坂田武志<sup>1</sup>、廣明秀一<sup>1</sup>(<sup>1</sup>阪大薬、<sup>2</sup>横浜国大工、<sup>3</sup>蛋白工学研)
- 1-32 Retinoic Acid Receptor-DNA結合ドメインの構造及びそのDNA結合に関する研究 ○片平正人(横浜国大工)、R. Kaptein(オランダ・ユトレヒト大)
- 1-33 蛍光エネルギー移動を利用したDNA上の特定位置間の距離の推定 ○尾崎広明(群馬大工)、ラリーW. マクラフリン(ボストン・カレッジ)
- 1-34 合成ポリマーによって引き起こされるDNA分子の形態変化と動的挙動:蛍光顕微鏡による直接観察 ○南川慶二、松沢有希子、吉川研一(名大人間情報)、西村千寿、前田瑞夫、高木誠(九大工)
- 1-35 新規直線状トリスインターカレータの塩基配列に依存したDNA結合 竹中繁織、○西側秀一、近藤寛樹(九工大情報工)、高木誠(九大工)
- 1-36 蛍光分光法によるアジドチミジンとDNA塩基間の電子相互作用 今久保慶一(名大理物理)
- 1-37 合成RNAとキナクリンおよびその類似物との相互作用:分光学的研究 ○中村正一郎、吉松早織、村上勝彦、久保田幸雄(山口大理)

11月12日(木)

9:00-10:30 セッション6 ヌクレオシドの合成、反応(1)

2-1 チアヌクレオシド類の合成 上西潤一、○本山満弘、高橋啓司(岡山理科大学)

2-2 DASTを利用したフッ素化ヌクレオシド類新規合成法 丸山徳見、○内海邦彦、佐藤佳子(徳島文理大薬)

2-3 [2-<sup>2</sup>H]-デオキシリボヌクレオシド類の高立体選択的合成並びにそれらを含むオリゴマーの合成 川島悦子<sup>1</sup>、○関根健志<sup>1</sup>、青山如生<sup>1</sup>、平尾一郎<sup>1</sup>、甲斐荘正恒<sup>2</sup>、京極好正<sup>3</sup>、石戸良治<sup>1</sup>(<sup>1</sup>東薬大、<sup>2</sup>都立大、<sup>3</sup>阪大蛋白研)

2-4 2-イミノマロン酸ジエステルをジエノフィルとして用いる超高压下でのDiels-Alder反応ならびにその付加体からの炭素環ヌクレオシドの新規合成 片桐信弥、○栗本歩、北濃健司、野地弘之利、佐藤弘、金子主税(東北大薬)

2-5 3'-置換-2',3'-ジデオキシ-2'-メチリデンピリミジンヌクレオシドの合成 ○アブダラ A. A. ハッサン、松田彰(北大薬)

2-6 4'-炭素置換ヌクレオシドの立体選択的合成 ○原口一広、田中博道、伊藤佳治、宮坂貞(昭和大薬)

10:30-10:50 休憩

10:50-12:20 セッション7 ヌクレオシドの合成、反応(2)、オリゴヌクレオチドの合成(1)

2-7 簡単なアシクロヌクレオシドの合成法 ○姥澤賢、高嶋秀昭、関谷浩一(三菱化成医薬研)

2-8 リンオキシ酸のアルキル化反応 ○鮎川洋、大内将吉、東谷誠一郎、高木伸幸、R. K. Singh、石川正英、畑辻明(東工大総理工)

2-9 アデノシン6-N-ホスホロアミダートの合成と性質 和田猛、○森口朋尚、関根光雄(東工大生命理工)

2-10 シアル酸を含んだ核酸糖類の研究: CMP-シアル酸類縁体の合成 池田潔、○長尾美宏、阿知波一雄(静岡県立大薬)

2-11 核酸P(V)ポリフィリン誘導体の合成と機能 ○清水剛夫、瀬川浩司、北村昌紀、二村敦人(京大工)

2-12 Fluorescent dye phosphoramidite labelling of oligonucleotides Pete Theisen, Christie McCollum, Krishna Upadhy, Karen Jacobson, Huynh Vu, ○Alex Andrus (Applied Biosystems Inc.)

12:20-13:20 昼食

13:20-13:50 特別講演2 自然および誘導突然変異をコントロールする分子機構 関口睦夫(九大生医研)

13:50-15:16 セッション8 オリゴヌクレオチドの合成(2)、ポスター概要説明

2-13 部分的にリン酸トリエステル構造を有するオリゴDNAの合成 早川芳宏(名大人間情報)、○早川昌彦、広瀬雅朗、野依良治(名大理工)

2-14 2',5'-オリゴチオアデニル酸-ウラニルイオン触媒による位置及び立体選択的なオリゴマーの合成及びその物性 ○島津昌光、沢井宏明、篠塚和夫(群馬大工)

ポスター概要説明

2-15P プリンヌクレオシド類のDIBAL還元による新規リボース部開環反応 ○北出幸夫、広田耕作、牧敬文(岐阜薬大)

2-16P 2',3'-エポキシ-ピリミジンヌクレオシド類のLi<sub>2</sub>CuX<sub>4</sub>による位置選択的ハロゲン化 源勝磨、○渡辺健二、柳原一史(名大工)

2-17P チオグリコシドを用いた2'-デオキシ及び2',3'-ジデオキシヌクレオシド類の合成 杉村秀幸、○筋野敬子、大隅賢二(野口研究所)

2-18P シクロプロパノヌクレオシドの合成 ○川名政次郎、葛原弘美(理研)

2-19P ラジカル反応を用いたC-ヌクレオシドの合成[2]-4員環糖鎖化合物への応用 ○東郷英雄、石神祥子、横山正孝(千葉大薬)

2-20P セリンをスパーサーとする光学活性人工核酸の合成と核酸類との相互作用 増見典央、○和田健彦、望月衛子、稲木良昭、竹本喜一(阪大工)

2-21P N<sup>4</sup>-アミノデオキシシチジンを含むオリゴマーの合成とその性質 ○桑鶴祥子、早津彦哉(岡山大薬)、根岸和雄(岡山大遺伝子)

2-22P α-グリコシド結合を有する非天然型プリン核酸の合成とその物理化学性質 ○廣田好樹、篠塚和夫、沢井宏明(群馬大工)

2-23P ホスホロチオエートオリゴマーの二重鎖、三重鎖DNA形成への影響 ○塚原智、S. -G. Kim、高久洋(千葉工大工)

- 2-24P ラベルアンチセンスDNAと核酸およびタンパクとの相互作用 ○村上章<sup>1</sup>、永原俊治<sup>2</sup>、植松弘規<sup>1</sup>、森井孝<sup>1</sup>、井出博<sup>1</sup>、牧野圭祐<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>京都工繊大繊維、<sup>2</sup>国立循環器病センター)
- 2-25P デオキシエテノアゲノシンを含む蛍光DNAプローブを用いた遺伝子探索 村上章、○乙井健治、藤村尚子、森井孝、井出博、牧野圭祐 (京都工繊大繊維)
- 2-26P 2塩基対によって形成されるミニヘアピン型DNAとRNAの構造とその安定性 ○平尾一郎<sup>1</sup>、河合剛太<sup>2</sup>、西村善文<sup>3</sup>、三浦謹一郎<sup>4</sup>、渡辺公綱<sup>2</sup>、石戸良治<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>東薬大、<sup>2</sup>東大工、<sup>3</sup>横浜市大、<sup>4</sup>学習院大)
- 2-27P 最近接塩基対をもつDNAオリゴヌクレオチドの二重らせん形成の動的メカニズム 杉本直己、○本多敬一、佐々木宗夫 (甲南大理)
- 2-28P 大腸菌tRNAの<sup>15</sup>N、<sup>13</sup>Cによる標識およびNMR解析 ○河合剛太<sup>1</sup>、高柳正明<sup>2</sup>、林宣広<sup>1</sup>、新美辰也<sup>3</sup>、三瓶巖一<sup>3</sup>、溝淵潔<sup>3</sup>、宮澤辰雄<sup>2,4</sup>、横山茂之<sup>3</sup>、渡辺公綱<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>東大工、<sup>2</sup>横浜国大工、<sup>3</sup>東大理、<sup>4</sup>現蛋白工学研)
- 15:16-16:15 セッション9 ポスター発表 (2-15P~2-28P)
- 16:15-18:00 セッション10 アンチセンス、塩基対合、tRNA
- 2-29 Novel strategies towards construction of non-ionic and achiral backbones in an antisense oligonucleotides ○Yagesh S. Sanghvi, J-J. Vasseur, Francoise Debart and P. Dan Cook (ISIS Pharmaceuticals, U. S. A.)
- 2-30 オリゴヌクレオチド誘導体の機能化と遺伝子プローブへの利用 ○山名一成、大橋由人、布田賢治、青木雅昭、中野英彦、三軒齊 (姫路工大)
- 2-31 アンチセンスDNA立体異性体の構造特性 村上章<sup>1</sup>、○田村裕<sup>1</sup>、西正敏<sup>2</sup>、森井孝<sup>1</sup>、井出博<sup>1</sup>、牧野圭祐<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>京都工繊大繊維、<sup>2</sup>摂南大薬)
- 2-32 キメラ核酸による自己相補的DNA・RNAのハイブリッド形成とその安定性 杉本直己、○松村彰子、加藤美佐、佐々木宗夫 (甲南大理)
- 2-33 高度好熱菌tRNAメチル化酵素の研究 ○山崎紀彦<sup>1</sup>、堀弘幸<sup>2</sup>、小沢潔<sup>1</sup>、中西茂子<sup>2</sup>、上田卓也<sup>2</sup>、熊谷泉<sup>2</sup>、渡邊公綱<sup>2</sup>、西川一八<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>東工大生命理工、<sup>2</sup>東大工)
- 2-34 In vitroにおける大腸菌tRNAアイデンティティーの研究 ○田村浩二、朝原治一、行木信一、姫野俵太、長谷川典巳、清水幹夫 (宇宙研)
- 2-35 半tRNAからtRNAおよびrRNAへの進化 大西耕二 (新潟大理)

11月13日 (金)

9:00-10:30 セッション11 分子生物(1)、ポスター概要説明

- 3-1 新しいヒトPCNA関連遺伝子の構造解析 ○谷口泰史<sup>1</sup>、勝俣佳也<sup>1</sup>、小井戸薫雄<sup>2</sup>、吉村真一<sup>1</sup>、末水洋志<sup>1</sup>、守内哲也<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>東海大医、<sup>2</sup>慈恵医大病理)
- 3-2 新しいシグナル伝達調節遺伝子の解析 ○内海龍太郎、片山諭、池田昌郁、谷口学、野田万次郎 (近畿大農)
- 3-3 pUC19 $\beta$ -ラクタマーゼ遺伝子の効率的転写に必要なベントDNAコンホメーションの解析 ○廣田美子、大山隆 (明治乳業ヘルスサイエンス研)

ポスター概要説明

- 3-4P PCR-HPLC法による遺伝子コピー数の測定 ○吉村真一<sup>1</sup>、宍倉章浩<sup>2</sup>、小井戸薫雄<sup>2</sup>、宮沢善夫<sup>2</sup>、末水洋志<sup>1</sup>、谷口泰史<sup>1</sup>、牛込新一郎<sup>2</sup>、守内哲也<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>東海大医、<sup>2</sup>慈恵医大病理)
- 3-5P 固相化DNAプローブによるcDNAクローニング法 ○鶴井博理<sup>1,2</sup>、金南順<sup>1</sup>、梅沢ゆり<sup>1</sup>、加藤誠志<sup>1,3</sup> ( <sup>1</sup>神奈川科学技術アカデミー、<sup>2</sup>順天堂大医、<sup>3</sup>相模中央化学研究所)
- 3-6P 増殖状態に依存した大腸菌プラスミドDNAのトポロジー変化 ○古野亜弥 (静岡大理)、加藤幹男 (大阪府立大総合科学)
- 3-7P メッセンジャーRNAの構造と真核細胞における翻訳効率 ○脇山素明<sup>1</sup>、平尾一郎<sup>2</sup>、熊谷泉<sup>3</sup>、渡辺公綱<sup>3</sup>、三浦謹一郎<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>学習院大生命分子、<sup>2</sup>東薬大薬、<sup>3</sup>東大工)
- 3-8P 逆平行 $\beta$ -sheet-DNA相互作用モデル化合物、抗菌ペプチドtachyplesin I ○米澤敦夫、杉浦幸雄 (京大化研)

- 3-9P Mybタンパク質とDNA相互作用 ○谷川潤、西村善文（横浜市立総合理）、石井俊輔、皿井明倫（理研筑波LSC）
- 3-10P 放線菌ヌクレオチド3'-ピロホスホキナーゼの作用とその遺伝子 ○牟田滋、小副川一豊、江崎聡、M. Zubair、久原哲、向井純一郎（九大院農）
- 3-11P DNA複製に対する塩基損傷の影響—Abasic部位におけるプリンヌクレオチドの選択的な取り込み機構 井出博、○村山浩、森井孝、村上章、木村良晴、牧野圭祐（京都工繊大繊維）
- 3-12P コンフォメーションを制限したサンギバマイシン誘導体の合成とそのプロテインキナーゼ阻害活性 飯森隆昌<sup>1</sup>、杉山孝司<sup>2</sup>、白戸博紀<sup>2</sup>、石崎達也<sup>2</sup>、脇坂康尋<sup>2</sup>、大塚晏央<sup>3</sup>、大石武<sup>4</sup>、○村井安<sup>3</sup>、児玉佳男<sup>5</sup>、大内章吉<sup>5</sup>（<sup>1</sup>帝京大薬、<sup>2</sup>横浜国大工、<sup>3</sup>明治製菓薬総研、<sup>4</sup>明治薬大、<sup>5</sup>明治製菓薬技研）
- 3-13P 耐熱性酵素を用いたPAPSの合成 ○伊吹洋、田代恭久、林まゆみ、中島宏（ユニチカ中研）、Liu Ming-Cheh（オクラホマ大）、水光正仁（宮崎大生物資源）
- 10:30-11:30 セッション12 ポスター発表（3-4P~3-13P）
- 11:30-13:00 セッション13 分子生物（2）、変異、複製、酵素等（1）
- 3-14 アルツハイマー病の原因と云われるAPP遺伝子のプロモーターの塩基配列について 篠田孝子（化技研）
- 3-15 Spl亜鉛フィンガーによるGC-box認識とDNA構造変化 ○桑原淳、二村真祐美、米澤敦夫、杉浦幸雄（京大化）
- 3-16 転写因子の塩基性ペプチド領域によるDNA認識 ○森井孝<sup>1</sup>、下村雅俊<sup>2</sup>、斎藤烈<sup>2</sup>、村上章<sup>1</sup>、牧野圭祐<sup>1</sup>（<sup>1</sup>京都工繊大繊維、<sup>2</sup>京大工）
- 3-17 DNA損傷を導入した合成ras遺伝子の構築と生ずる点突然変異の解析 ○紙谷浩之、三浦裕幸、鈴木理之、村田尚子、石川博幸、清水美穂、小松康雄、村田哲也、佐々木鋭郎、井上英夫、三浦一伸、大塚栄子（北大薬）、西村暹（萬有製薬つくば研）
- 3-18 リボフラビン光増感によるDNA中の8-ヒドロキシグアニンの生成 ○葛西宏<sup>1</sup>、山泉二郎<sup>1</sup>、山本富裕美<sup>1</sup>、別所忠昌<sup>1,2</sup>、西村暹<sup>1,2</sup>、M. Berger<sup>3</sup>、J. Cadet<sup>3</sup>（<sup>1</sup>国立がんセンター研、<sup>2</sup>萬有つくば研、<sup>3</sup>グルノーブル原子核研）
- 3-19 活性硫酸PAPSを利用する生体内酵素スルフトランスフェラーゼ ○水光正仁<sup>1</sup>、Fernando P. H. P<sup>1</sup>、榊原陽一<sup>1</sup>、中島宏<sup>2</sup>、Liu Ming-Cheh<sup>3</sup>、中津誠一郎<sup>1</sup>（<sup>1</sup>宮崎大農、<sup>2</sup>ユニチカ、<sup>3</sup>オクラホマ大）
- 13:00-14:00 昼食
- 14:00-14:30 特別講演3 Some novel pyrimidine nucleoside rearrangements effected by diethylaminosulfur trifluoride (DAST) Anne E. Lloyd, Paul L. Coe, Oliver W. Howarth, ○Richard T. Walker (University of Birmingham, U. K.)
- 14:30-16:15 セッション14 変異、複製、酵素（2）
- 3-20 タンパク質をプライマーとするDNA複製 ○岸努（東大工）、三浦謹一郎（学習院大生命分子）、松本幸次、広川秀夫（上智大生命研）
- 3-21 Trifluoromethyldeoxyuridine(CF<sub>3</sub>dUrd)のDNA合成阻害機構の解明 ○佐竹弘靖、武田節夫、綿矢有佑（岡山大薬）、松村彰子、佐々木宗夫、杉本直己（甲南大理）
- 3-22 5-ステリルdUTPおよびその糖部変換アナログのレトロウイルス逆転写酵素および真核生物DNAポリメラーゼに対する阻害効果 ○山口十四文、実吉峯郎（西東京科学大バイオサイエンス）、松影昭夫（愛知がんセ）、伊豆田俊二、鈴木元、吉田松年（名大医）
- 3-23 細胞内dNTPプールの不均衡時に誘導されるDNA二本鎖切断酵素 ○大谷昌士、黄和信、中沢徹、綿矢有佑（岡山大薬）
- 3-24 修飾ヌクレオチドを含むオリゴリボヌクレオチドのエキソクレアーゼ活性に対する阻害効果 ○坂爪修、田中博昭、高久洋（千葉工大工）
- 3-25 イソプロピルリン酸トリエステルを含むDNAの生物活性 屋鋪哲也（岡山大薬）、山名一成、西島佳孝（姫路工大工）、○根岸和雄（岡山大遺伝子）
- 3-26 6-Azauridine誘導体の鎮静・睡眠作用 ○木村敏行<sup>1</sup>、渡辺和人<sup>1</sup>、越上誠<sup>2</sup>、宮本謙一<sup>3</sup>、近藤繁美<sup>4</sup>、山本郁男<sup>1</sup>（<sup>1</sup>北陸大薬、<sup>2</sup>日研化学、<sup>3</sup>北陸大創薬研、<sup>4</sup>日水製薬）
- 16:15-16:30 閉会の辞、来年度予定

参加予約申込 締切：8月31日（月）

住所、氏名、所属を明記の上、郵便振替（福岡5-9081第19回核酸化学シンポジウム）にて下記参加登録費をご送金下さい。なお、プログラムと参加登録証は当日会場にてお渡し致します。

参加登録費 予約：一般（共催学会会員）8,000円 学生 5,000円

当日：各2,000円増し

懇親会 11月12日（木） 18：30より、リーセントホテルで開催の予定。

参加費：一般8,000円、学生5,000円。原則として予約制とします。参加費を添え、参加登録予約時にお申し込み下さい。なお可能な場合には、前日申込受付を行うこともあります。

#### 宿泊案内、航空券割引案内

いくつかのホテルを確保しております。参加予約申込者には龍王旅行天神本部店核酸化学シンポジウム係(TEL 092-711-1885 FAX 092-751-1773 担当 竜口または西)より宿泊案内書等をお送りします。その他の希望者は上記あてお申し込み下さい。また、11月10日（火）夕方の東京ー福岡、11月13日（金）夕方の福岡ー東京便航空機各1便を、特別割引料金による団体便として設定する予定です。これについても参加予約者に龍王航空よりご案内致しますので、希望者はお申し込み下さい。

申込及び連絡先：〒812 福岡市東区箱崎6-10-1  
九州大学理学部分子遺伝学講座  
大島靖美または谷時雄  
TEL 092-641-1101 内線4420 or 4421  
FAX 092-632-2741

## 第15期活動計画決まる

平成3年11月 日本学術会議広報委員会

日本学術会議は、このたび開催した第113回総会において、第15期活動計画と新しい特別委員会の設置を決定しましたので、その概要をお知らせいたします。

## 日本学術会議総会における内閣官房長官挨拶

平成3年10月23日(水) 日本学術会議講堂

日本学術会議第113回総会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

御承知の通り、日本学術会議は、我が国の科学者の内外に対する代表機関として、科学の向上発展を図り、行政、産業及び国民生活に科学を反映浸透させるという重大な責務を負っております。

21世紀に向けて、さらに調和のとれた真に豊かな国民生活を実現するためには、創造性豊かな科学技術は申すまでもなく、学術全般を一層発展させることが必要であります。また、我が国の国際的地位の向上に伴い、全地球的視点に立った我が国の国際的な貢献が強く求められております。

そこで、日本学術会議の皆様におかれましては、日本の科学研究の一層の進展のために、長期的かつ高い観点から議論を重ねていただくとともに、科学研究の分野において我が国がどのような国際的貢献をなすべきか等自然科学のみならず、人文・社会科学も含めた全学問的領域から総合的に検討していただき、建設的な御意見を積極的にお出しいただきたく、お諮りをいたします。

頂戴いたしました有意義な御意見につきましては、その実現に最大限の努力をいたしたいと考えております。

終わりに、日本学術会議の今後の御発展と、御出席の皆様方の御健勝を祈念いたしまして、私の挨拶といたします。

## 日本学術会議第113回総会報告

日本学術会議第113回総会(第15期・第2回)は、10月23日～25日の3日間開催された。

総会冒頭、官房長官の挨拶があった。(上掲)

近藤会長からの前回総会以降の経過報告に続いて、運営審議会附置委員会、部会、常置委員会、国際対応委員会の各委員長、部長からの報告があった。そして第15期日本学術会議の活動方針となる「第15期活動計画(申合わせ)」と「臨時(特別)委員会の設置について(申合わせ)」(別掲)の2件の提案があり、真剣な討議の後、一部修正をして、圧倒的多数の会員の賛成により可決した。この2件の提案内容は、前回の臨時総会で設置された第15期活動計画委員会

が審議を重ねて作成したものであり、またその間に2回の連合部会及び部会を開いて、各会員の意見を集約したものである。

総会2日目は、予定を急遽変更してSSC(超電導超大型粒子加速器)計画についての討議を行った。これは去る10月15日に運営審議会のメンバーに対し、米国大統領補佐官D・アレン・プロムリー博士が、SSC建設計画に関して日本の協力を求めるスピーチを行ったのに対して、第4部から総会討議資料が提出されたためである。中岬貞雄第4部長と伊達宗行会員が登壇し説明を行い質問等に答えた後討議に入った。午後熱心な討議は続き政府に対して要望を提出することが採択された。

内閣官房長官挨拶の中で諮られた学術に関する国際対応については、第15期活動計画の中にも提唱されているが学術会議としては、今後、重要案件として審議することとした。

このほか、広報委員会、将来計画委員会も開催された。

総会3日目は、各常置委員会、各特別委員会(第1回会議)が開催された。

## 第15期活動計画

日本学術会議は、創設以来、科学者や学術研究団体との連携の下に、その目的・職務の遂行に努力し、我が国の学術研究体制の整備についての重要な勧告等を行い、研究所の設立などを含めて数々の業績を挙げてきた。また、数多くの国際学術団体との連携・協力、国際学術協力活動への参加など世界の学界と提携しつつ学術の進展に貢献してきた。しかしながら、創設後40有余年を迎えた現在、学術を取り巻く状況は、国際的にも国内的にも著しい変化を生じた。このような状況を踏まえて、第15期日本学術会議は、本会議の創設以来の基本的精神を引き続き堅持しながら、変動の激しい内外情報に対応して、なお一層の成果を挙げるべく努力する。

日本学術会議は、学術に関する重要事項を自主的に審議し、我が国の学術研究の在り方についての方策を立案し、学術研究の成果を行政、産業及び国民生活に反映浸透させることを使命としている。このため、会員の科学的知見を集集し、時代の要請に即応しつつ将来を見通し、以下の視

点から学術研究の一層の推進を図る。

人文・社会及び自然科学を網羅した日本学術会議は、学問的視野に立ち、学術研究団体を基盤とする科学者の代表機関であることを認識して、全科学者の参加と意見の集約を図らなければならない。さらに、本会議が集約した科学者の意見を速やかに政策の形成に反映させるようにすべきである。特に学術政策については、他の関係諸機関との連携を強化し、その実現を図る。

また、学術研究団体を基盤とする日本学術会議は、関係ある学術研究団体等から推薦された科学者を中心として構成される研究連絡委員会の重要性を認識し、その活動を強化するとともに、学術研究団体との連絡を密にし、研究基盤の強化を図り、高度化する学術の発展に貢献する。

我が国の科学者を内外に代表する機関である日本学術会議は、国際社会における我が国の地位の向上に照らし、海外諸国の期待と時代の要請にこたえて、学術の分野における国際貢献に積極的な役割を果たすべきである。

日本学術会議は、真理探究という基本理念に立脚し、国民とともに学術の在り方を考え、同時に学術の国際性を重視するものである。そのためには、学術の健全な発展に向けて、学問・思想の自由の尊重と研究の創意への十分な配慮の下に、長期的かつ大局的な視点に立ち、創造性豊かな研究の推進に努める。

科学が文化国家の基礎であるという確信に立ち、日本学術会議は、科学者の総意を代表してその精神を高揚したい。即ち、21世紀に向けて学術体制及び研究・開発の望ましい在り方を抜本的に検討し、我が国の学術政策に指針を与えることにより、国民の期待にこたえとともに、人類の福祉と世界の平和に貢献することを期するものである。

#### 1. 重点目標

第15期活動計画の重点目標は、次のとおりとする。

##### (1) 人類の福祉・平和・地球環境の重視

今世紀において、科学・技術は長足の進歩を遂げたが、一方において、地球環境の悪化を始めとして、人類の将来を脅かすような事態が起こっている。さらに現在の世界は、激動の渦中にあり、その影響は、学術の分野にも及んでいる。

今日の社会的現実が提起している問題を解決するには、直接に関係する研究だけでなく、広く諸科学が積極的に関与する必要がある。そのためには、多くの研究領域が、それぞれ独自に一層の深化を図るとともに、共同の努力を行い、研究の内容、学問体系の変革にまで進むべきである。人文・社会及び自然科学を包含する日本学術会議は、その特徴を生かして十分な審議を行い、人類の福祉・平和・地球環境を重視して、学術研究の進むべき方向を提示する。

##### (2) 基礎研究の推進

学術の研究は、人類の発展に不可欠であることは言をまたない。日本学術会議は、将来の学術の発展に向けて、各分野の基礎研究の推進に積極的に取り組むこととする。

また、学術の領域は広範多岐であり、基礎研究であれ応用研究であれ、それぞれの領域ごとに方法論も異なり、研究者の求めるものに大きな違いがあることを十分に考慮し、各分野の研究者の声を聞き、それぞれに適した育成策を講ずる必要がある。それと同時に、学術研究の動向に注目し、いわゆる学際的研究や学問の総合化に留意しつつ、諸科学の調和のとれた発展を目指すことが重要である。

以上のため、第13期においては学術研究動向、第14期においては学術研究環境に関する調査研究を行い、我が国の学術水準の国際比較やその発展を阻害する諸因子な

どを指摘した。今期においては、これらの調査結果を参考にしつつ、創造性の基礎となる個人の着想を重視し、かつ、国際的にみた学術研究の動向を見極め、独創的研究の強化策等を積極的に図る。さらに、国民生活の向上発展に資する学術の具体的方策を審議提言する。

##### (3) 学術研究の国際貢献の重視

学術研究は、本来、真理の探究を目指す知的活動であり、その成果は広く人類共通の資産として共有されるべきものである。したがって、学術の国際交流は、学術研究にとって本質的に重要であり、その在り方に常に心を払う必要があることは言うまでもない。

さらに近年は、国際平和の推進や環境問題の解決等、いわゆる地球的存在の国際的規模の課題について、我が国の研究を充実させつつ、広く世界の諸科学の発展を積極的に推進する必要が増大している。また、発展途上国及び近隣諸国の学術振興のため、これら諸国の研究者に協力して、貢献策を立案することが強く要望されている。これらのことから、我が国の科学者が今後積極的に国際貢献に取り組み、学術を人類の繁栄と世界の平和に役立てるため積極的な役割を果たすことが必要となりつつある。

以上のような状況から、本会議が築いてきた国際学術交流・協力の在り方についての諸原則と実績を基盤として、学術の国際交流・協力の飛躍的な拡充強化を図り、国際的寄与を格段に拡大することが極めて重要である。

#### 2. 具体的課題(要旨)

次の課題を選定した。

- (1) 科学者の倫理と社会的責任
- (2) 学術研究の長期的展望
- (3) 研究基盤の強化と研究の活性化
- (4) 研究者の養成
- (5) 学術情報・資料の整備
- (6) 学術研究の国際交流・協力
- (7) 国際対応への積極的取り組み
- (8) 文化としての学術
- (9) 平和と安全
- (10) 死と医療
- (11) 生命科学と社会的諸問題
- (12) 人口・食糧・土地利用
- (13) 資源・エネルギーと地球環境
- (14) 巨大システムと人間

#### 3. 具体的課題への対処及び臨時(特別)委員会設置について(省略)

注：国際対応委員会の扱いは常置委員会の並びとする

◇今回の総会決定により設置された特別委員会◇

- ・文化としての学術
- ・平和と安全
- ・死と医療
- ・生命科学と社会的諸問題
- ・人口・食糧・土地利用
- ・資源・エネルギーと地球環境
- ・巨大システムと人間

御意見・お問い合わせ等がありましたら、下記までお寄せください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34

日本学術会議広報委員会 電話03(3403)6291

## 第15期特別委員会の活動始まる

平成4年3月 日本学術会議広報委員会

日本学術会議では、昨年10月の総会において設置された第15期の各特別委員会が活動を始めましたが、今回の日本学術会議だよりでは、これらの特別委員会に加えて、日本学術会議主催 IGBP シンポジウム等についてお知らせいたします。

## 第15期の特別委員会

昨年10月の第113回総会で決定された、日本学術会議の第15期活動計画では、活動の重点目標として、①人類の福祉・平和・地球環境の重視、②基礎研究の重視、③学術研究の国際貢献の重視、の3本の柱を掲げるとともに、これらの重点目標を踏まえて、多方面の科学者によって構成される日本学術会議にふさわしく各分野にわたって広く対応し、かつ第15期中に適切な形で報告・提言に取りまとめるべき具体的課題として14の課題を選定している。

具体的課題のうち、今期中に一応の結論を出すことが望ましい臨時的な7つの課題については、それぞれ特別委員会を設置し、審議を開始した。

各特別委員会の名称及び任務等は次のとおりである。

## ◆文化としての学術

委員長：宅間 宏（第4部会員）

（任務）学術は、人類発展の基礎である。学術研究の意義についての社会的認識を深めるため、文化としての学術の在り方を検討する。

## ◆平和と安全

委員長：香西 茂（第2部会員）

（任務）平和と安全の確保や国際摩擦の解消等に関する研究推進の在り方及び研究体制等について検討する。

## ◆死と医療

委員長：小坂二度見（第7部会員）

（任務）医療技術の急速な進展は、自然科学の分野だけでなく、人文・社会科学の領域にも種々の問題を提起している。終末医療における尊厳死、安楽死や医療経済の問題、さらに説明と同意などの社会的側面等人の死と医療の在り方について検討する。

## ◆生命科学と社会的諸問題

委員長：山科郁男（第7部会員）

（任務）生命科学とその応用の急速な進展に伴い、倫理的、社会的諸問題並びに規制の在り方等について検討する。その際、我が国における生命科学の研究体制の在り方にも留意する。

## ◆人口・食糧・土地利用

委員長：梶井 功（第6部会員）

（任務）世界人口の増加や地球環境変化による食糧需給の不安定化問題と、これらに伴う土地利用変化の諸影響等を総合的に検討して、人間活動の在り方を探る。また、一極集中の激しい我が国の現状を勘案し、今後の国土利用の在り方についても検討する。

## ◆資源・エネルギーと地球環境

委員長：吉野正敏（第4部会員）

（任務）資源・エネルギーの開発と利用に伴う自然及び人間社会への影響を研究し、「持続可能な発展」のための諸方策と環境教育の在り方等について検討する。

## ◆巨大システムと人間

委員長：内山喜久雄（第1部会員）

（任務）技術革新・システムの巨大化が人間に及ぼす影響について、安全性確保と人間性尊重の立場から検討する。

これらの各特別委員会は、発足以来現在までに各々2～3回の会議を開催して、それぞれの任務に添った具体的な審議課題や今後の審議計画等について熱心に審議を進めている。今後の審議の成果が大いに期待されているところであり、今後、審議成果が発表され次第紹介していく予定である。

## 公開講演会の開催状況

第15期に入って、初めて開催された日本学術会議主催公開講演会は、「文明の選択—都市と農業・農村の共存を目指して—」と題して、平成4年1月27日(月)13時30分～16時30分に、福岡明治生命ホール(福岡市)で開催され、水間会員(第6部)、北村会員(第6部)及び利谷会員(第2部)の講演が行われ、多数の聴講者があつた。

つづいて、「子どもの人権を考える」と題して、平成4年3月7日(土)13時30分～16時30分に、日本学術会議講堂で開催され、堀尾会員(第1部)、永井会員(第2部)及び馬場会員(第7部)の講演の後、熱心な質問が続出した。

## 地球圏—生物圏国際協同研究計画(IGBP)シンポジウム

日本学術会議主催の地球圏—生物圏国際協同研究計画(IGBP)シンポジウム「日本のIGBP研究の現状と将来」が去る2月4日(火)、5日(水)の両日、日本学術会議を会場として開催された。

日本学術会議においては、平成2年4月の総会において、「地球圏—生物圏国際協同研究計画(IGBP)の実施について(勧告)」を採択し、政府に対し研究の積極的な推進を求めたところであるが、IGBPについて国内の各研究者、研究機関において実施される研究の促進を図るとも

に、この研究が極めて多くの分野にわたり、また多数の研究機関が関与していることから、この研究の連絡、調整を図る場として、本シンポジウムを開催することとしたものである。また、我が国のIGBPの研究が、広義のモンスーン・アジア地域、西太平洋地域、極域を中心に行われることから、これらの地域の研究者を招きそれぞれの国の研究の状況の紹介、意見交換を行った。

本シンポジウムの内容は次のとおりである。

〔1日目〕

講演 IGBPについて

第1領域～大気微量成分の変動と生物圏

- (1) 地球大気化学国際協同研究計画 (IGAC)
- (2) IGACの東アジアにおける展開 (APARE)

第2領域～海洋における炭素循環

- (3) 海洋における炭素循環

第3領域～地球変化に係わる生態系及び水循環

- (4) 炭酸ガス変動が炭素循環に及ぼす影響
- (5) 水循環と生態系 (BAHC)

第4領域～地球圏-生物圏の相互作用を考慮したモデリング

- (6) 気候モデルおよび大気化学モデル
- (7) 局地気候・環境モデリングの立場から
- (8) 生態系モデリングの立場から

第5領域～IGBPにおける地球観測衛星の整合性と問題点

- (9) 気象衛星データの現状と将来
- (10) 地球観測衛星データの現状と将来
- (11) NASA EOS と ASTER

第6領域～古環境変化の原因と応答

- (12) PAGESについて
- (13) 南極氷床ドーム深層掘削観測計画
- (14) 温暖化と沿岸環境

第7領域～農林水産活動の地球環境への影響

- (15) 農業生態系に関する地球環境研究-メタンと温暖化-
- (16) 森林・林業に関する地球環境研究-炭素収支と温暖化の抑制-

〔2日目〕

特別講演～ナショナルプロジェクト紹介～

オーストラリア、中国、フィリピン、タイ及び日本

領域別個別討議

第1領域から第7領域まで

各領域からの報告

総合討論

当日は2日間にわたるシンポジウムであったが300人を超える参加者があり、盛況のうちに終了した。

本シンポジウムの成果は、報告書として取りまとめ、今後の研究の参考資料として関係機関・研究者等に配布することとしている。

なお、平成4年度にも引き続き本シンポジウムを開催する予定である。

## 二国間学術交流事業

日本学術会議では、二国間学術交流事業として毎年代表団を海外に派遣し、訪問国の科学者等と学術上の諸問題について意見交換を行って、相互理解の促進を図る事業を行っている。

この事業は、昭和58年度から実施されており、これまでにアメリカ合衆国、連合王国、オーストラリア、中華人民共和国等19か国に代表団を派遣してきた。

平成3年度は、11月4日から14日までの11日間の日程で、ベルギー王国及びオーストリア共和国へ、川田侃副会長を団長とする計10名（うち随行事務官2名）から成る代表団を派遣した。

ベルギー王国では、科学技術担当省、科学、文学及び芸術に関する王立アカデミー、ブリュッセル自由大学、EC本部教育関係機関、EC本部環境総局などを、また、オーストリア共和国では、科学研究省、オーストリア科学アカデミー、ウィーン大学、ドナウ河畔の国連都市にある国際原子力機関 (IAEA)、国連工業開発機関 (UNIDO) などを訪問した。

各訪問先では、関係者との間で、それぞれの国の学術研究体制や科学技術政策などをめぐって活発な意見交換が行われた。

特に印象的だったものとして、まずベルギー王国では、ECが推進しているERASMUS計画、これはEC Action Scheme for the Mobility of University Studentsの略で、EC12か国の大学生を域内各国へ相互留学させて、専門課目や語学の能力向上あるいは風俗習慣の理解をはかろうとするもので、ECの将来に大きく貢献するものと思われる。また、ベルギー王国は、長い歴史の流れの中で、フランス語とオランダ語の2か国語が話されてきたため、この言語間の対立が、政治・経済の発展はもとより、学問の分野にも非常に複雑な影響を与えていることであった。今回訪問した科学、文学及び芸術に関する王立アカデミーやブリュッセル自由大学もまったく同名のアカデミーと大学がフランス語系 (ワロン系) とオランダ語系 (フラマン系) とに分かれて存在しており、我々の代表団も、団編成を2班に分けてこれらの機関を訪問することになったことは、非常に印象的であった。

オーストリア共和国では、650年の伝統をほこるウィーン大学やオーストリア科学アカデミーの建物の重厚さに目を見はり、またドナウ河畔に作られた国連都市にIAEAとUNIDOの2つの国連機関を訪問した際には、IAEAのチェルノブイリ原発事故以後の核問題への積極的な取り組みやUNIDOの開発途上諸国における工業発展に対する貢献度の大きさに団員一同大いに感激するとともに、D. L. Siason Jr. UNIDO事務局長の流暢な日本語には、だれもがびっくりさせられた。

近年、学術、特に基礎研究における我が国の国際貢献の重要性がウェイトを増す中で、この種の学術交流事業は益々強化されるべきものであることを、派遣代表団員全員が強く認識させられた今回の渡欧であった。

御意見・お問い合わせ等がありましたら、下記までお寄せください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34

日本学術会議広報委員会 電話03(3403)6291

日本分子生物学会 会報

年3回刊行（6月・11月・2月）

第42号（1992年6月）

発行：日本分子生物学会 庶務幹事

製作：学会センター 関西

（財）日本学会事務センター 大阪事務所